

保護者支援としての授業参加： 児童英語教室に通う親の意識調査

研究ノート

村 上 加 代 子

Key Words: English, preschool, second-language acquisition, parent involvement, parents as teachers

1. はじめに

幼児を対象にしたおけいこで、英語の人気は高い。無藤隆（2005）の幼児を対象とした調査では、英語などの語学教室に通う子どもは2000年から2005年の5年間で3倍近く増加している。単に学習人口の増加ではなく、学習開始年齢の低下が加速的に進んだ結果である。言語習得はコミュニケーション活動そのものであるため、年齢が低いほど親の関わりの比率は高い。幼児の学習環境という観点からは、家庭という場が生活の中心であり、家庭学習を促進する要となるのは親である。そのため親を中心とした家庭での学習の取り組みが最も重要である。子どもの学習成果に関する研究では、英語に限らず親の励ましや関心が大きく影響することが明らかにされている。親の関心について、Koizumi & Matsuo（1993）らは中学生を対象とした研究で、親の励ましを感じていない子どもほど英語の熟達度が低いことを明らかにしている。また佐藤（2007）は小学生の親子を対象にしたセミナーで、親子が一緒に取り組むことで子の学習意欲が促進されることを明らかにし、家庭での教育力の支援の重要性について述べている。

しかしすべての親が最初から子どもの学習に関心があるわけでも、必要な知識があるわけでもない。アメリカ教育省内の育児情報・資源センター（Parental Information and Resource Centers）の要請でまとめられた報告書『親の教育参加』（*Engaging Parents in Education*, Horne 2007）によると、多くの親にとって無関心の原因は、子どもとどのように関わればよいかわからない、あるいは自信の欠如にある。『親の教育参加』は、そうした親への情報、支援、励まし、特殊な訓練（specific training）の提供が必要であるとしている。この種の保護者支援の実践例がニューヨーク州ナイアック市（Nyack）のモンテッソーリ・センター（Montessori Center）で行われている。Goren（2003）によると、このセンターはプリスクールの親を対象にした基礎スペイン語会話セッションを無料で提供している。会話セッションでは家族間のコミュニケーションの重要性を強調し、幼児カリキュラムで使用しているのと同じ歌、語彙、フレーズを導入している。このプログラムでは会話の基礎トレーニングだけでなく、子どもの学

習内容と同じ内容を把握できるため、親はスペイン語の知識の有無とは無関係に、家庭で子どもとの関わりに必要なだけの情報を得て実践につなげることが可能である。

日本の児童英語教室では同センターのように無料で親に会話セッションを提供している教室は少ないだろう。しかし子どもと同じ情報を親が獲得する場に関しては、授業参加あるいは参観がそれに相当するのではないだろうか。幼児の場合は母子分離不安やコミュニケーションがうまくいかない場合などの補助役として、親と一緒に授業に参加している風景は珍しくない。親はそうした場で得た知識や情報をどのように受け止めているのだろうか。

本稿では、授業参加が共通知識の獲得の場となっていると仮定し、親の授業参加に関する意識調査を通じて、授業参加と家庭学習の関連性について探る。調査にあたっては保護者の参加状況の異なる9教室の親を対象とし、アンケートを実施した。アンケートでは家庭での英語活動で困難を感じる場面、教室に希望する支援についての項目もあったが、参加状況とそれに対する親の意識に焦点をあてるため、本稿では割愛する。また本調査での参加とは授業で子どもと実際に同じ活動を行っている参加と、教室の後ろあるいは外で様子を見ている参観、見学の両方を意味する。

2. 調査の計画と実施

既述のように、本稿では授業参加が親と子どもにとって共通知識の獲得の場となっていると仮定し、親の授業参加に関する意識調査を通じて、授業参加と家庭学習の関連性について探ることにある。以下に本調査のいっそう具体的な調査の目的、対象、方法を示しておく。

2. 1 調査の目的

- (1) 児童英語教室に子どもを通わせる親を参加親、不参加親に区別し、年齢による参加・不参加の比率を探る。
- (2) 不参加親のうち参加経験のある親に対し、不参加になってからの変化についての自由回答から参加と家庭活動の関連性を探る。
- (3) 家庭で実践している英語活動と頻度について、参加状況別の傾向を探る。
- (4) 参加親の授業参加の肯定感について質問し、親が参加をどう捉えているかを探る。
- (5) 参加親と不参加親を対象に参加を希望するか否かの質問を通じて、授業参加に対する親の希望を探る。

2. 2 調査対象・方法

- (1) 対象者：英会話教室と英会話サークルの指導者8名の協力を得て、教室に通う子どもの親205名への無記名のアンケート調査を実施した。有効回答はそのうち172（回答率85パーセント）であった。子どもの年齢による差異を明確にするため、未就学児童を未就園児、

幼稚園児に分け、また小学校低学年児を設け、計3群にまとめた。なお、この調査に協力した教室の指導者はそれぞれ個人で教室やサークルを運営しており、授業の内容、規模、親の参加に関する考えはそれぞれ異なっている。

- (2) データの収集法：合計8項目からなるアンケート票を用いたが、各質問項目は以下のとおりである。なおアンケート票は本稿の末尾に添付している。

問1：教室外で英語活動を行っているかどうかを問う質問

問2：授業に参加しているか否かを問う質問

問3：授業に参加経験があるか否かを問う質問

問4：参加経験のある親に不参加になってから英語活動に変化があったか否かを問う質問

問5：参加親を対象に参加への肯定感を問う質問

問6：今後の参加希望と頻度を問う質問

問7：家庭の英語活動で難しいと感じる点に関する質問

問8：教室にどのような支援を希望するかについての質問

このうち、問1、問4、問5、問7、問8では、いっそう具体的な回答を得るために自由記入欄を設けた。

- (3) 調査の実施：アンケート票は英語教室をとおして親に配布し、1か月以内に回収するようにした。調査実施の期間は2008年7月1日から8月上旬である。

3. 調査の結果と考察

2. 1「調査の目的」では、本研究の具体的な目的として5つの項目を設定した。本節ではこの5つの項目を取り出し、その調査結果を記述するとともに、若干の分析と考察を行う。

3. 1 授業への参加状況

授業への参加状況を問うたのが問2「お子様のレッスンと一緒に参加（または見学）していますか」である。その結果をまとめたのが〈表1〉「年齢群別授業への参加状況」で、有効回答172名のうち、参加親は70名（40.7パーセント）、不参加親は102名（59.3パーセント）であった。子どもの年齢が低いほど親の参加の比率は高く、年齢が高くなるにつれ低くなる。これをさらに未就園児（0－3歳）、幼稚園児（3－6歳：保育園児を含む。以下同様）、小学校低学年児に分けて集計すると、未就園児の場合は42名（80.8パーセント）、幼稚園児21名（45.7パーセント）、小学校低学年児7名（9.5パーセント）と年齢が上がるにつれて参加の比率は低下する。

年齢の上昇とともに親の参加が低下する理由としては、幼い弟妹の存在や教室のスペースの問題、子どもの自立を促す親の期待など様々な要因が考えられる。母子分離が進む幼稚園年少、年中くらいになると「子どもだけでも大丈夫だから」という回答が一般的な理由と思われる。

この理由は、親の付き添いの目的が親との分離不安の解消や動作の補助にあるためで、子どもが成長するにつれて親を必要としなくなることは、むしろ喜ばしいことと考えられているためである。これは以前参加していた親が不参加になってからの変化を問う質問で、「私がついていなくてもしっかりレッスンが受けられている」、「きちんとレッスンに参加するようになった」など、回答者が子どもの自立を理由に挙げていたことと関係している。教室での親の役割が子どもの補助だけであるなら、まさに幼稚園入学後の3歳から4歳で親は不要となるだろう。

表1 年齢群別授業への参加状況

年齢群	参加	不参加	年齢群別計
未就園児	42 (80.8%)	10 (19.2%)	52 (100%)
幼稚園児	21 (45.7%)	25 (54.3%)	46 (100%)
小学低学年児	7 (9.5%)	67 (90.5%)	74 (100%)
計	70 (40.7%)	102 (59.3%)	172 (100%)

注：未就園児は0-3歳、幼稚園児は3-6歳である。

3. 2 以前授業に参加していた親の変化

参加経験のある親とは、参加や見学という形で実際に授業に参加していたことがある親である。参加に対する親の視点を明らかにするため、不参加の親に以前授業に参加していたことがあるかどうかを尋ね、不参加になってから家庭での英語活動に変化があったかどうか、あった場合どのような変化であったかを記す自由回答欄を設けた。その結果、現在不参加の親102名のうち36名が以前に参加しており（問3）、不参加になってから変化したことがあるかどうかの質問に対しては「ある」が15名（42パーセント）、「ない」が21名（58パーセント）であった（問4）。変化があったとした親の自由回答を、その内容から「子どもの自立」と「家庭学習、親の態度」に大きく分けたのが、〈表2〉「参加経験のある親の変化」である。

変化があったとした親の自由回答は、子どもの自立に関するものと家庭学習、親の態度に関するものの2通りであった。子どもの自立に関する回答例では「自分でできるようになった」、「きちんと参加するようになった」、「宿題を自分でできるようになった」など、親の手が離れ、子どもが自立する様子を肯定的に捉えている。一方、家庭学習、親の態度に言及した回答からは、「授業の内容を家で話さなくなった」、「一緒に遊ばなくなった」など、家庭での活動内容が減少したといった指摘があり、また子どもと「一緒に学習したい」と希望している親もいる。「その日の学習内容がわからないので、私自身が声に出して言ってあげることができない」という回答からは、授業への参加が家庭学習のための直接的な情報源となっていたことがわかる。後述する3. 4「授業参加の肯定感」の自由回答からも、授業への参加が単に子どもの補助だけでなく、家庭学習に必要な情報を獲得する場としての役割も担っていることがわかる。

表2 参加経験のある親の変化

子どもの自立		家庭学習、親の態度	
a	きちんとレッスンに参加するようになった。私が居ると甘えてふざけたりして、何もしなかった。	a	一緒に英語で遊ばなくなった。 (同回答数：3)
b	私がついていなくてもしっかりレッスンが受けられている（習ってきた単語や歌がたまに聞ける）。	b	レッスンで行っていた歌を歌わなくなり、ワークブックをするように勤めることもなくなった。
c	その日に習った事を家でもやっている。	c	授業の内容など家で話をしなくなってしまった。
d	宿題を自分でできるようになった。	d	全く家庭学習しなくなった。個人的に一緒に学習したい。
e	子供達だけのレッスンなので吸収が早いように思います。	e	本人に学習の内容を聞いても答えが返ってこない（学習内容がわからない）宿題を忘れる。
		f	子供に質問されてもわからない。
		g	その日の学習内容がわからないので、私自身が声に出して言ってあげることができない。

回答数=14

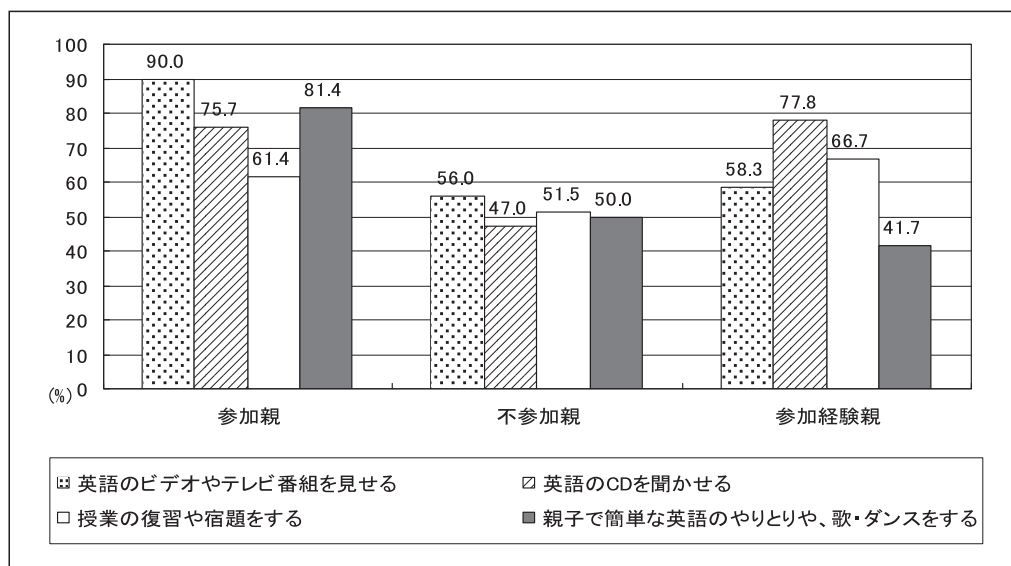
3. 3 参加状況別家庭での英語活動内容

親の参加状況によって家庭での英語活動に違いはあるのだろうか。参加親、不参加親、参加経験親の3群に、家庭で行っている活動と頻度について質問し、その結果を「よくしている」と「ときどきしている」の合計を比率で示したものが〈グラフ1〉「参加状況別家庭での英語活動」である。活動の選択肢は4項目で、「英語のビデオやテレビ番組を見せる」、「親子で簡単な英語のやりとりや歌・ダンスをする」、「授業の復習や宿題をする」、「英語のCDを聞かせる」である（問1）。

〈グラフ1〉が示すように、参加親がほとんどの活動内容においていっそう積極的に活動していることが理解できる。また、参加親と不参加親の値の差が大きい項目は「英語のビデオやテレビ番組を見せる」（参加親90.0パーセント、不参加親56.0パーセント）と「親子で簡単な英語のやりとりや、歌・ダンスをする」（81.4パーセント、50.0パーセント）で、最も差の小さい項目は「授業の復習や宿題をする」（61.4パーセント、51.5パーセント）であった。参加経験親はちょうど参加親と不参加親の中間となるわけだが、不参加になって最も減少したのが「親子で簡単な英語のやりとりや、歌・ダンスをする」と「英語のビデオやテレビ番組を見せる」であり、これは不参加親とほぼ同じ数値である。特に不参加になってから親子間での英語のやりとりが極端に減っていることは注目に値する。親子で英語で遊んだり、歌を歌ったりというのは直接授業に出ていないとなかなかできないものである。一方で「英語のCDを聞かせる」、「授業の復習や宿題をする」の値にさほど変化がないのは、こうした活動には授業内での情報がなくても家庭内で取り組みやすいためと考えられる。ただしこれらの変化には授業の参加だ

けでなく年齢や教室側の取り組みなどの要素が加わるため一概に断定できはしない。

グラフ1 参加状況別家庭での英語活動



複数選択可。回答数：参加親=70、不参加親=66、参加経験親=36

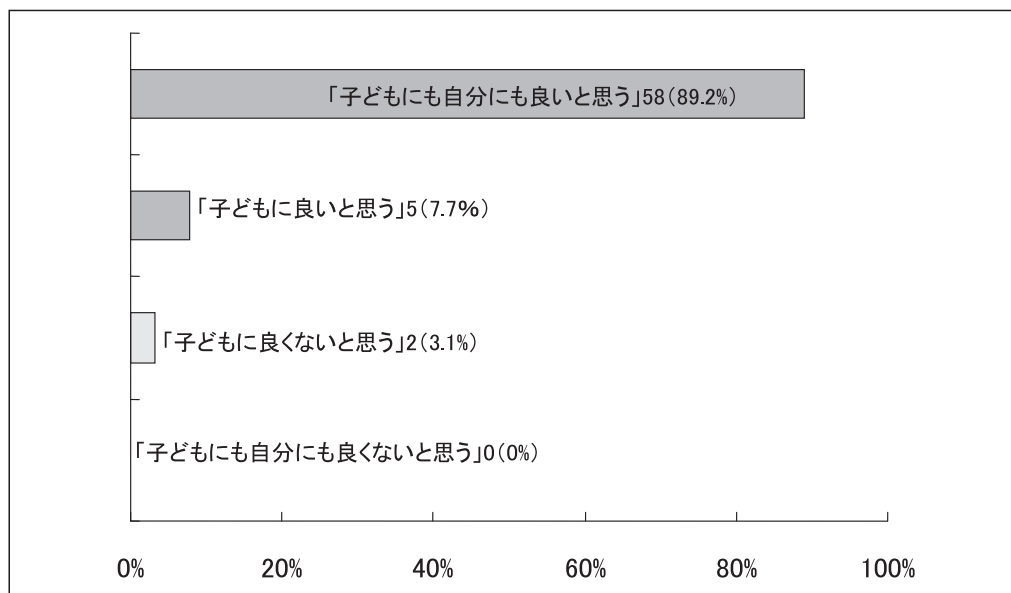
3. 4 授業参加の肯定感

参加親に授業参加が親子にとって良いか否かを問うたのが問5である。その結果を〈グラフ2〉「授業参加への肯定感」に示した。この結果では、ほとんどの親が授業への参加を親子双方に良いと感じている。「子どもにも自分にも良いと思う」が有効回答数65名のうち58名(89.2パーセント)で、「子どもに良いと思う」の5名(7.7パーセント)と合わせると、63名(97パーセント)に達した。また、「子どもにも親にも良くないと思う」の回答はゼロであった。「子どもには良くないと思う」の回答者(2名)はその理由として、「親がいると子どもが恥ずかしがる。集中できない」、「子どもが甘える」を挙げている。こうした回答はともかく、ほとんどの親は「見学するとどのような学習をしているか分かり、家でも話題になってよい」という積極的な意見であった。

年齢の低い子どもの親ほど参加への肯定感が高いのではないかと予想していたが、調査結果によるとすべての年齢群で親子と一緒に授業に参加することを肯定的に捉えていた。毎回授業に参加している小学校低学年児7名の親は、全員が「子どもにも自分にも良い」を選択しており、「良い」・「良くない」の理由についての回答からは、いくつかのパターンが見受けられた。「自分自身も子供に英語を教える方法がわかるので良いと思います」、「英語での接し方が参考になる」、「復習しやすい」、「子どもの得意不得意がわかり、家で復習するときの参考にな

る」など、教室で得た知識が家庭学習に役立つことを指摘している回答が最も多かった。また、「親自身も楽しいからです」、「子供は親と一緒に楽しむと喜びます」、「歌ったり手遊びすると元気になる」というように、子どもと親と一緒に楽しめる機会として捉えているものもあった。なお「クラスでの学習に集中できない」、「参加しないときのほうが活発な気がする」という否定的な回答も少数あったが、これらは子どもの教室での様子や自立に不安を感じたものである。これらの回答から、授業に参加している親は単に見ているだけでなく、参加を子どもと共通の知識を得る機会として捉えている様子がわかる。以上の回答を〈表2〉「参加経験のある親の変化」で参加経験親があげていた変化と比べると、参加親が家庭学習に関して「良い」とあげている内容は、参加経験親が失ったと感じている内容と同じであり、このことから参加と家庭学習が関連していることが理解できる。

グラフ2 授業参加への肯定感



有効回答数=65

3. 5 授業参加への親の希望

すべての親を対象に今後授業への参加を希望するか否かを問うたのが、問6「今後、お子様のレッスンに参加してみたい（あるいは継続して参加したい）と思いますか」である。〈表3〉「年齢群別授業への参加希望頻度」は、この問への回答を年齢群別にまとめたものである。全体では「毎回参加したい」と「ときどき参加したい」を合わせると、165名中150名（89.9パーセント）に達している。次に、年齢群別で見た場合、未就園児49名のうち37名（75.5パーセント）が毎回参加を希望している。しかし幼稚園児になると、その比率は45名中13名（28.9パー

セント)と急に減少する。小学低学年で毎回参加を希望する親は71名中わずか3名(4.2パーセント)であるが、その3名全員が、現在も毎回参加している親であった。幼稚園児では46名中25名(54.3パーセント)の親が不参加であったが(表1参照)、授業の参加希望者は40名(88.9パーセント)となった。同じく小学低学年児の親の67名(90.3パーセント)が不参加であるのに対し、参加希望者は62名(87.3パーセント)となり、現在不参加の親が高い割合で参加を希望していることがわかった。

表3 年齢群別授業への参加希望頻度

参加希望の頻度	未就園児	幼稚園児	小学低学年	総回答数
毎回参加したい	37 (75.5%)	13 (28.9%)	3 (4.2%)	53 (32.1%)
ときどき参加したい	11 (22.5%)	27 (60.0%)	59 (83.1%)	97 (57.8%)
全くしなくてよい	1 (2.0%)	5 (11.1%)	9 (12.7%)	15 (9.1%)
年齢別合計	49 (100%)	45 (100%)	71 (100%)	165 (100%)

有効回答数=165

(表1)「年齢群別授業への参加状況」と比較すると、親の現在の参加状況と、参加希望の頻度の相関性が見える。参加状況と参加希望頻度の比率は、特に小学低学年生と未就園児においてはほぼ一致している。小学校低学年の参加親9.5パーセント、不参加親90.5パーセントに対し、毎回参加を希望する親は4.2パーセント、ときどき参加あるいは不参加希望親の合計は95.8パーセントである。未就園児では、毎回参加親が80.8パーセントであるのに対し、毎回参加を希望する親は75.5パーセントとこれもかなり近い数値であった。つまり、毎回参加している親はそのままの頻度を希望しているが、不参加の親で「ときどき参加」を希望する人が多いということであろう。幼稚園児の場合、参加親45.7パーセント、不参加親54.3パーセントとほぼ均等であるが、幼稚園年中を境に「ときどき参加」の方が「毎回参加」よりも多くなった。

以上の数値からほとんどの親が授業に参加することを希望していることがわかる。授業の参加の実態と希望に関しては教室側と親との間にずれが生じていると感じた。現在「毎回参加している」親のほとんどがこれからも「毎回参加したい」を選択しており、それは小学生の親においても同様であったことから、授業の参加が単に自立していない子どもの手助けというだけでなく、家庭学習の情報源や親自身の楽しみの場となっていると考えられる。保護者が子どもの学習に関心を持ち、関わることで子どもの学習成果に大きくプラスに働くという研究結果を改めて主張するまでもなく、いま現在教室に子どもを通わせている親自身が授業参加の重要性を感じ、参加を希望しているのではないだろうか。

まとめ

児童英語教室に参加している親の比率は、年齢が低いほど高く、年齢が高いほど低くなる。

参加経験のある親が指摘する不参加になってからの変化は、子どもの自立、英語活動の減少の2点に集約される。これは親の役割に対する視点が異なるためである。授業参加に関しての自由回答からは、参加することで親自身が楽しんでいる様子や子どもとのコミュニケーションの機会となっているほか、主に子どもと家庭で英語活動を行う際の参考となっていることが明らかになった。これらのことから、授業参加が共通知識獲得の場となっており、具体的な保護者支援の要素として授業参加は潜在的な可能性を既に持っていることがわかる。幼い子どもほど親との関わりが大きく影響するため、親への支援も視野に入れたサービスが望まれる。子どもの年齢、学習歴、親の学習歴、動機、教室の取り組みなど背景や条件の違いはあろうが、ほとんどの親自身が授業参加から得られる情報を肯定的に捉えており、頻度に差はあるものの参加を希望している。しかし現状と親の希望には大きなずれがあり、今後は特に年齢の高い児童の親の要求に応えることが教室側に求められている。より効果的な保護者支援の実現には、親がどういった情報を求めているのか具体的に明らかにしていく必要がある。親が家庭での英語活動で困難を感じている項目、教室に希望する支援についてのアンケート回答は次回にまとめた。

参考文献 (*は引用文献)

- * Goren, Dorothy (2003). "Preschool Second-Language Acquisition: A Parent Involvement Program To Reinforce Classroom Learning." *Montessori Life, Spring*, 1-2.
http://eric.ed.gov/ERICDocs/data/ericdocs2sql/content_storage_01/0000019b/80/1b/01/fc.pdf. (2008年9月18日アクセス)
- * Horne, Sharon Kinney (2007). *Engaging Parents in Education: Lessons from Five Parental Information And Resource Centers*. June, 1-2.
<http://www.ed.gov/admins/comm/parents/parentinvolve/engagingparents.pdf>. (2008年9月18日アクセス)
- Koizumi, R., & Matsuo, K. (1993). "A Longitudinal Study of Attitudes and Motivation in Learning English Among Japanese Seventh-grade Students." *Japanese Psychological Research*, 35, 1-11.
- アレン玉井光江 (1993). 「親から見た児童英語教育」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』第12号, 3-12.
- 北尾倫彦編 (1990). 『子どもの心理と教育』創元社.
- 佐藤大介・松畑熙一 (2007). 「小学校英語教育推進のための保護者に対する支援：親子英会話セミナーの実践を通して」『中国学園紀要』第6号, 69-79.
- 橋本容子・他 (1999). 「よりよい英語教育に向けての取り組み」『文京女子大学研究紀要』第1号, 257-290.
- * 無藤隆 (2005). 『第3回幼児の生活アンケート・国内調査』ベネッセ.
http://benesse.jp/berd/center/open/report/youjiseikatsu_enq/2005/index.shtml (2008年9月20日アクセス)
- * 横山東・横山正幸 (1993). 「幼児の英語教育に対する母親の意識と体験」『日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要』第12号, 13-26.

参考資料1 参加親の授業参加に関する自由回答（質問項目5）に記載された回答一覧

- 復習しやすい。
- 人見知りをする為1人だと緊張して動けないので一緒だと楽しめるようです。
- 家で一緒に遊べる。
- 内容が親も理解していると家庭での復習がスムーズ。親子でやると楽しいと思うと子供が乗ってくる。
- 自分も一緒にすると子供の様子も見れて、自分も覚えてよいです。
- 家で復習できるので。
- 後で教室で話をするため、色々な話ができる。
- 自分も勉強になる。
- レッスンでどんな事をしているのか子供の様子が良く分かるので良いと思う。
- 子供の得意不得意がわかり、家で復習するときの参考になる。
- 子供が自分の力で理解するよう、時には1人で参加することも良いと思う。
- 親も内容がよくわかり、子供と共に成長できるから。だがいつもだと時間がないかな…。
- たまに見学するとどのような学習をしているか分かり、家でも話題になってよいです。
- 家での英語学習の参考になり、また子供との英語レッスンに関する会話のきっかけになるので。
- 一緒に楽しめる。ゲームや歌など共に覚えることができる。
- 兄弟なので親も一緒にみんなで歌などを覚えられる。英語での接し方が参考になる。
- 子供が小さいので家でできる歌や手遊びを習える。
- 同じ学習経験をする事により、家庭での反復が自然にできる。
- 小さいうちは一緒に遊ぶ感覚で学習するほうが良いように思うので。
- 子供も安心してレッスンできる。
- 親も一緒に少しでも英語を理解した方が良いと思うためです。
- 子供は親と一緒に安心してのびのび参加できる。親も英語に徐々に触れてリフレッシュできる。
- まだ一歳児なので、親と一緒にないと子供に不安感を与える。私も英語に親しみ子供達の笑顔にふれてリフレッシュできる。
- 一緒にすることによって子供が親のマネをしてより積極的にクラスに参加するように思うから。
- 一緒に参加することで自然な雰囲気を作れるような気がする。
- 子供が小さすぎることもあり、親も一緒に学べるから。
- 子供とのコミュニケーションが大切なので、何でも一緒にする事が楽しくてよい事だと思う。
- 親自身も楽しいからです。英語とふれあう時間は教室の間しかないです。
- 子供は親と一緒に楽しむと喜びます。自分自身も子供に英語を教える方法がわかるので良いと思います。
- 親子で関われるから（ふれあえる）。
- 子供の英語に対する反応が直に見られて良い。
- 新しく出来たことを誉めてあげられる。
- 楽しい。
- 歌ったり手遊びすると元気になる。
- 自分が英語が苦手だから歌なら一緒にできる。
- 親と一緒に参加すると甘えがでて集中しなくなる。
- 参加したときよりも参加しない時の方が活発な気がする。
- 結果てきには良かったと思うものの今後あまりそのような機会は望まない。むしろモニターがあれば見たいと思う。
- クラスでの学習に集中できない。

参考資料 2 家庭での英語活動と保護者のレッスン参加に関するアンケート票

1. 英語教室外やクラス外で行っている英語活動についてお聞きします。何をどれくらいの頻度で行っていますか。あてはまるものに○をしてください。

①英語のビデオやテレビ番組を見せる	全くない／ほとんどない／ときどきする／よくする
②英語の CD を聞かせる	全くない／ほとんどない／ときどきする／よくする
③レッスンの復習や宿題をする	全くない／ほとんどない／ときどきする／よくする
④親子で簡単な英語のやりとりをしたり、一緒に歌やダンスをすることがある	全くない／ほとんどない／ときどきする／よくする
⑤その他の家庭でしていることなど（具体的に）	

2. お子様のレッスンと一緒に参加（または見学）していますか。

A. はい B. いいえ（*「はい」の方は、5 番の質問へ進んでください。）

3. 「いいえ」の方にお聞きします。

①以前、お子様が小さいときや、違うスクールで、お子様のレッスンと一緒に参加したことはありますか。

A. はい B. いいえ（*「いいえ」の方は、6 番の質問へ進んでください。）

4. レッスンと一緒に参加しなくなって、ご自身、あるいはお子様の、家庭での英語活動について変化したことはありますか。当てはまる方に○をしてください。また、その理由をお書き下さい。

A. ある B. ない

→→→→ 6 番の質問へ進んで下さい

5. 「はい」の方への質問です。

A. 参加はどのような形式ですか？当てはまる方に丸をしてください。

見学のみ / 一緒に歌ったり踊ったりもする

B. 以下で当てはまるものにチェックをしてください

- 一緒に参加することは、子どもに良いと思う
- 一緒に参加することは、子どもにも自分にも良いと思う
- 一緒に参加することは、子どもには良くないと思う
- 一緒に参加することは、子どもにも自分にも良くないと思う

→→上でチェックをした、良い・悪いの理由をお書き下さい。

保護者支援としての授業参加：児童英語教室に通う親の意識調査

6. 今後、お子様のレッスンに参加してみたい（あるいは継続して参加したい）と思いますか。

毎回参加したい

時々参加したい →どのくらいの頻度で参加したいですか。（○をしてください）

月に1度／3ヶ月に1度程度／半年に1度程度／年に1度程度

全く参加しなくてもよい

7. 保護者の方がお子様と家庭で英語を使用する際に難しいと思う点があればチェックをしてください。

（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 自分の発音	<input type="checkbox"/> 子どもがいやがる
<input type="checkbox"/> 単語や文法の知識	<input type="checkbox"/> 家でできる英語の遊びや活動がわからない
<input type="checkbox"/> レッスンの内容がわからない	<input type="checkbox"/> 時間がとれない
その他（具体的に： 	

8. 最後に、現在通っている教室で、保護者向けに行ってほしい支援などがありましたら何でもお書き下さい。

（例：絵本の読み聞かせ練習、公開レッスン…など）